



新潟県

NEW

県立病院ニュース

～病院に関係する全ての人から信頼される病院を目指して～

第167号 令和4年10月 病院局発行

県立病院初導入

がんセンター新潟病院に「ダビンチ」を設置！

がんセンター新潟病院は都道府県のがん診療連携拠点病院として、外科療法への対応を強化するために手術支援ロボット「ダビンチ」を導入しました。これにより多様な症例への対応力や術後の回復の速さなどが期待されます！

《ダビンチの概要》

正式名称は「Da Vinci Xi Surgical System (ダビンチ エックスアイ サージカルシステム)」で腹腔鏡手術※を行う器械です。特徴は、高画質で立体的な3Dハイビジョンシステムの手術画像と、人間の手の動きを正確に再現できることで、術者は鮮明な画像の下、より細かな手術を行うことができます。そのため癌組織の精緻な切除ができる、術後の回復が早まる、痛みを軽減できるという論文の発表があります。新潟県内では4施設目（新潟大学医歯学総合病院・新潟市民病院・長岡赤十字病院）となりますが、県立病院では初めての導入です。

※腹腔鏡手術：小型カメラ(内視鏡)を、体に開けた小さな穴(ポート)から体内(腹腔)に入れ、モニター越しに映像を見ながら、他のポートから挿入した手術道具(鉗子やハサミ等)で行う手術。肺や心臓のときは「腹腔」だが、膝の関節などでは「関節鏡下手術」という名前になる。

《ダビンチによる手術の様子(イメージ)》



◀①実際にロボットを動かし手術をする医師：4本のアームを使い内視鏡を体内に通して患部の様子を見ながらコントローラで手術を行います。

②アームの管理をする医師：内部の状況によって様々なメスや鉗子を使い分ける必要がありますので、その管理を行います。

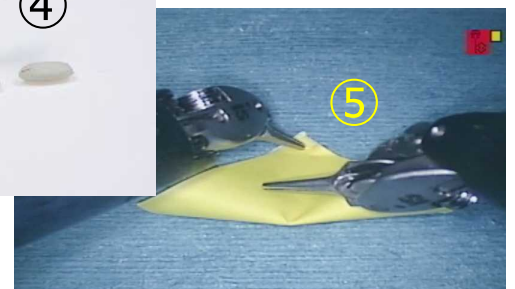
③麻酔医：通常の手術と同様、麻酔医が立ち合い、血圧などを見ながら患者の状態を管理します。

※このほかに②の医師のサポートや連絡調整を行う看護師が2名程度、器械の状態確認や不具合が生じた場合の対応のための臨床工学技士が2名程度参加します。

▶アームの先端は非常に小さく、かつ精密な動きを行うことができます。

④はお米を1粒だけつかんでいる様子です。

⑤はアームで折り紙を折っている様子です。



◀⑥のようなコントローラで操作します。

～がんセンター新潟病院のダビンチの研修に立ち合わせてもらいました～

ダビンチを導入した理由は何ですか？

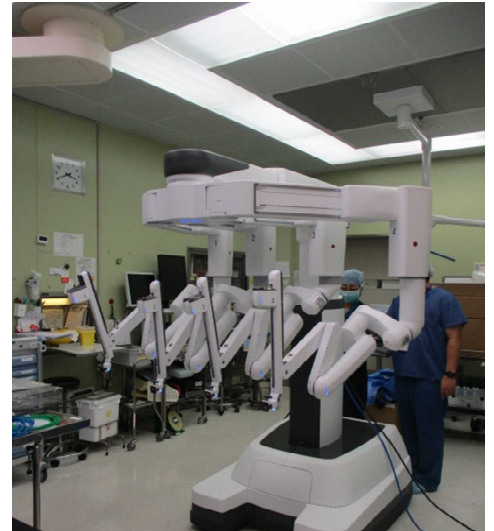
手首のような精密な動きが行えることで、様々な症例に対応できるポテンシャルがあることや、手術後の痛みや合併症が軽減されるので早く退院できるようになったという成果が報告されていることから、患者の皆様にも有効かつ安全で早期に回復できる手術ができるのではと思いました。

またダビンチで手術を受けることによるデメリットは特になく、今後保険適用の範囲も増えていく見込みですので患者さんにとって経済的にも安心して手術を受けてもらえると思います。

どれくらいの稼働を見込んでいますか？

今後の予定としては、10月末に関係医師等の必要なトレーニングが終了するので、消化器外科領域からダビンチ手術を導入する計画です。今年度は食道・胃・直腸の術式を予定しており、初症例として11月9日に胃の手術を行い、その後、腸、食道の順に行う予定です。

メーカーの推奨では6か月以内に、各臓器30件実施が目安となっているので、腸、食道、胃をそれぞれ5件ずつ15件/月の実施を目標としています。初期の段階では、プロクター医（指導医）を招聘して実施するため、患者の状況や、指導医等の日程の調整を進めているところです。



▲実際にがんセンターに導入されたダビンチ(ロボットアーム部分)



すぐ手術を実施できるのですか？

機能が優れている分、取り扱いが難しい面もあり、医師については認定医取得など資格が必要とされています。

また、ダビンチの運用には看護師や臨床工学技士などたくさんのスタッフの協力が必要です。そのため医師をはじめ、看護師や臨床工学技士も、既に導入している県外病院へ研修に行くなど研鑽を積んでおります。

実施までたくさん準備が必要なんですね。

いわゆるロボット手術を実施するためには、専門の医師、手術実績、ロボット手術ライセンス等、一定の基準をクリアする必要があります。

ダビンチ導入によりがんセンター新潟病院は基準をクリアした専門性の高い手術が行える施設として、広く県民の皆様にも認知いただくことで、患者の皆様にも選ばれる病院になると思います。

また、高度先進的技術の習得を目指す医師に対するアピールにもなるので、医師確保にもつなげたいと思います。



▲1回目の手術に向けての準備が進行中でした。

【編集後記】

手術室内では1か月後に迫る初めての手術に向けて緊張感の中にも生き生きとした表情で準備が進んでいました。非常にポテンシャルが高く、患者さんにとってメリットが大きいので、本県のがん医療の向上に寄与してほしいと思いました。